



小寺小だより

自分大好き友だち大好き学校大好き

9月号

令和6年9月吉日発行
神戸市立小寺小学校

「割れ窓理論」について～環境が人の心を育てる～

2学期が始まり、学校に元気な子供たちの声が戻ってきました。夏休み中、各ご家庭におかれましては、お子様の健康・安全への様々のご配慮を頂いたことと存じます。誠に有難うございました。

さて、今月は表題の「割れ窓理論」について紹介させていただきます。かつては様々な研修や会合の場などでよく取り上げられていたエピソードでもあります、なかなか的を射たところがあると思われます。ご存じの方も多いかと存じますが、参考までに下記に要約をお記いたします。

「割れ窓理論」とは、アメリカの犯罪学者ジョージ・ケリング博士によって提唱されたもので、「1枚の割れたガラスを放置すると、いずれ街全体が荒れて、犯罪が増加してしまう」という理論である。逆にいえば、公園や地域の清掃活動、落書きの消去作業などにより身のまわりの小さな乱れに早く対応すれば、将来発生し得る犯罪を未然に防ぐ効果があるといえる。かつて、犯罪多発都市ニューヨークで、1994年以降、当時のジュリアーニ市長が「割れ窓理論」を実施。割られた窓の修理や落書きなどの消去とともに軽微な犯罪の取り締まりを強化した結果、犯罪が大幅に減少したといわれている。ニューヨークのイメージは変わり、落書きで有名だったNY地下鉄は、いまではきれいな車体で、安全な乗り物としてニューヨーク市民の足になっている。

というものです。

環境には、物的な構成因子によって形成される物的環境と、人の発するストローク（言葉や表情、態度など）によって形成される人的環境があると言われます。上記エピソードは、物的環境の構成因子を整えたことにより、状況が飛躍的に改善された典型的な例ですが、この「割れ窓理論」は人的環境についても、該当するところが多いのではないかと私は考えています。特にご家庭や地域、そして学校など「人を育てる場」にあっては、この人的環境を整えることは、物的環境の整備と同等、あるいはそれ以上に重要なことであると思われます。

つまり、私たち大人が正しい知見に基づいたプラスのストロークを子供たちへ発してあげることが、子供たちが安心して過ごせる心地よい場の提供や豊かな情操を育む起点となるのではないかと思います。プラスのストロークの基本例としては、温かい笑顔、肯定的な言葉かけ、迅速・毅然な対応、感情をコントロールした冷静な言動などが挙げられます。

小寺小学校には、教育委員会関係の方々を含め多種多様な方々が来校されますが、どなたからも「子供たちの挨拶の声や笑顔が素敵ですね!」というお言葉を頂戴します。これは、ご家庭や地域、そして学校において私たち大人が発しているストローク（≡人的環境）の数々に対して小寺っ子たちが返してくれている一つの答えでもあると考えられます。

2学期も、保護者の皆様や関係の皆様のご理解・ご協力を賜りながら、物的環境、そして人的環境の両輪をしっかりと整え、子供たちの健やかな成長を支えて参りたいと考えております。引き続き、本校教育への変わらぬご支援・ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

校長

お知らせ

- ・お休みをいただいております塩崎春菜教諭ですが、9月21日から産休に入ります。
- ・以前お知らせしておりましたが2学期より、下校時刻が変更になります。1,2年生は水曜日4校時終了後、3,4,5,6年生は木曜日5校時終了後下校します。よろしくお願いいたします。